

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 6年 3月 19日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470203583		
法人名	株式会社 エポカケアサービス		
事業所名	グループホーム 己斐・みどりの家		
所在地	広島県広島市西区己斐上4丁目29番16号 (電話) 082-275-0010		
自己評価作成日	令和6年1月18日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470203583-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和6年3月15日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

基本方針である「ゆっくり、いっしょに、楽しく」をモットーにご利用者、職員同士の挨拶をしっかりと行い、自らの気持ちに余裕を持ち、ご利用者の心の声を聴き、何が出来るのかを一緒に考え職員自身も一緒に楽しむことができる生活空間を作っています。
また、「生活の場」であることを再認識し、ご利用者が今まで生きてこられた生活スタイルへ近づけるように「待てる心・創造力」を職員へ育てています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

毎年、年度始めに職員の意見を集約した事業所運営方針を掲げ、個々に目標を設定し、利用者の今までの生活スタイルへ近づけるよう日々ケアに取り組んでいる。事業所は各委員会を設け、推進役として担当者を決め取り組んでいる。職員は支援方法や業務に関する意見や提案が話しやすい関係性を築いている。委員会の一つに「笑顔の花を咲かそう委員会」を設け、担当職員は日頃から利用者や職員の会話の中から思いや意見を汲み取り、実現出来るようアイデアを出し合い、みんなが明るく集えるよう取り組んでいる。運営推進会議に多方面からの参加が得られるよう情報発信を行い、意見が反映に活かせるよう努めている。医療機関とも24時間連携協力体制を保ち、体調管理や看取りに関してもその人らしく最期が迎えられるよう方針を定め、チームが一丸となり寄り添う支援を実践している。

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の基本理念である「ゆっくり いっしょに たのしく」を誰でも目に留まるようリビング及び事務所内に掲示し、日々の実践に努めている。新人研修でもオリエンテーションにてまずこの理念について学ぶようになっている。	年度毎に職員の意見や提案を協議し、事業所運営方針を揚げ、職員は目指す目標を設定し、全員が共有を行い実践している。個々の目標達成度を面談で検証し、基本方針「ゆっくり いっしょに たのしく」「自分が暮らしたいと思える場所づくり」の実現に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の方が野菜を持ってこられたり、回覧板の当番になり回覧板をまわしたり会費を回収し地域の方と関係性を持っている。	地域の方から野菜や行事の雛祭りに雰囲気作りにと桃の花を頂いている。又、町内会に加入し、今年度は当番役で会費徴収や回覧板を回している。とんど祭りに利用者と一緒に歩いて参加し、地域の方ともふれあい、良い時間を過ごす等、地域の一員としての交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議では、ヒヤリハットや事故の事例を通し、認知症について話をし、質問に答えている。又、管理者は地域包括支援センター主催の認知症ケアカフェのプロジェクトに参加して、グループホームとは、などの話を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度対面開催にて開催し、町内会長、民生委員、入居者様ご家族、地域包括支援センター等に参加して頂き、ホームでの課題、状況を皆さんで話し合い周知している。	家族、町内会長、副会長、民生委員、地域包括支援センター、系列事業所職員等の参加で、昨年9月より対面開催をしている。フロアの様子、現状報告やヒヤリハット、行事報告をしている。地域包括支援センターより認知症カフェの情報等があり、反映に活かせるよう努めている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域包括支援センターとの関係良好。生活課との関係良好。生活課とも連絡を取っている。又、生活保護、介護保険に関する不明点や対応に関して入居者様の家族様からの質問や相談など対応に苦慮していることは、相談し、助言を頂いている。	運営推進会議に出席が得られ、地域包括支援センターと情報共有をしている。生活課の定期的な来訪、不明な点の質問、相談を行い助言やアドバイスを得たり、福祉センターで開催の研修に管理者やリーダーが参加する等、信頼関係の構築に努めている。	

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	虐待、身体拘束防止に関する研修をし、全職員へ周知を図っている。新人スタッフにはホーム長がきちんと説明し、正しく理解できるようにしている。ホーム内の勉強会も6カ月に1度行われている。入居者が帰りたいや外に出たいなど言われる時は、出来る限り外に散歩へ行っている。	身体拘束防止委員会を3ヶ月毎に開催している。全体会議で意識づけを行い全職員が周知している。年2回の勉強会は事例をあげてグループワークで対策案を協議し、理解を深め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロック(言葉による拘束)は職員間で気づきを注意、指導をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ケア向上委員を設置し、ミーティングでは問題定義し話し合っている。管理者は虐待防止研修に出席し、内容を全職員で共有している。入浴スタッフは入居者様の体に異変がないか必ず確認している。また、スピーチロックなど日頃無意識に行ってしまう行為はスタッフ同士で注意し合える環境をできる限り作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	年に2度本社マネジャーを招いて権利擁護の勉強会を行っている。内容は現場で起こりうる事が中心になっており、理解、及び実践的な内容になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時にはご家族様に十分納得していただけるように、十分に時間をかけて説明を行っている。エリアマネジャー、ホームの管理者が同席し、サポートしている。また、何度もご足労頂くことがないよう、関連医療、薬局の契約書なども予め揃えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	普段から電話を掛けさせてもらい意見や要望をお聞きし、伝達ノート等を使って職員全員で共有している。又、他ホームで発生した事案なども本社から回覧され、反映している。ご家族からのご意見はすぐにホーム長もしくはフロアリーダーに報告するよう全スタッフが理解している。	電話や面会、毎月日頃の様子を手紙で郵送し、意見や要望を聞く機会を設けている。意見や要望を申し送りノートに記録し、又、系列事業所の事案等閲覧にて報告情報共有している。年2回家族会を予定していて、家族間の交流の中での意見等を反映に活かす取り組みをしている。	

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日、朝に短時間のミニミーティングを行い、入居者様や業務に関して意見などを出し合っている。毎月開催する全体ミーティング等で運営状況を話している。日頃から職員同士のコミュニケーションが円滑で、異なるユニット同士でも意見を言い合える職場環境が整っている。	朝の申し送り時や毎月の全体会議で話し合い、日頃からのコミュニケーションで業務の中で生じる意見等否定せず、前向きに考え、まずはやってみる事で反映に繋げている。勤務表の休み希望も話し合いで希望に沿えるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	キャリアパス制度を導入し、業務や人員体制など検討を行っている。本社の方と年に2度面談を行いやりたい事や業務改善などについて話を行っている。上長とは、年に1度面談を行い、目標設定や普段の様子などの聞き取りを行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月に1度全体ミーティングで勉強会を行い情報を共有する中、ケアに対する姿勢として前向きに考え”まずはやってみよう”精神で職員相互に協力しながら実践に努めている。その後は、評価が出来るようにミーティングを使って行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	zoomの研修などで他施設の方たちと意見交換を行っている。同法人でも毎月リーダー以上の会議が開催されて、今の現状など情報交換を行いサービスの向上につながっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にはホーム長、職員が面会し、ご本人様、ご家族様からの要望をお聞きしている。ご本人様の今まで生きてこられた歴史を大切にできるよう努めている。聞き取った内容は全職員が共有している。また、馴染みの家具や小物などを前もって持って来て頂くなどして初期の不安を軽減するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	本人様同様、ご家族と聞き取り、関わりを通して信頼関係を構築している。ホーム側からお声掛けするなどして、話しやすい雰囲気になるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、ご家族様の想いの傾聴に努め、納得できる支援方法を探す努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	理念に沿い、職員は「介護している」と思うのではなく、「互いを尊重し合い、一緒に時を過ごし、同じ場所で一緒に楽しく生活している」ことを念頭に置いている。職員の都合ではなく、常に入居者様のペースで個別ケアを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	イベントや日常生活のブログを作成しホームの中の様子をお伝えしたり、月に一度ホームで通信や、手紙(ご様子)や電話で近況をお伝えしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出の際はその方の馴染みのある場所を通るなど工夫している。	個人携帯や電話の取り次ぎ、馴染みの場所を通ってのドライブや近所の方の来訪、家族の協力を得て墓参りや錦帯橋への外出を行った。訪問美容の方と顔なじみになる等、馴染みの人や場の関係が途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様それぞれの関係性を把握し、その時の表情や発言から気持ちに寄り添い、周囲との交流が出来るよう配慮している。また、庭の掃除やレクリエーションなどを通して1F、2Fの入居者様に関わりをもてるように工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居された後も運営推進会議に出席して下さりご意見を下さったり、町内のイベント等でスタッフや入居者様に話しかけに来てくださるご家族がいる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様の発する何気ない言葉や表情に注視し、生活日誌に記録し、ご要望を推測したり、直接聞いたりしている。お話が困難な方は表情やしぐさから読み取るよう努めている。また、集団生活の中での意思表示が難しそうな時は散歩やドライブにお誘いして思いを聞くようにしている。	日頃の会話の中からちょっとした言葉を生活日誌に記録し、表出の難しい利用者は家族や生活歴の中から把握している。入浴時や散歩、ドライブ中の表情や仕草で思いや意向の把握に努めている。「笑顔の花を咲かせよう委員会」があり、職員は叶えられるよう尽力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の情報シート、生活歴が把握の一步だが入居されてからご本人と関わっていくうえで出てくる話の内容などを記録し職員間で情報共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	変化したこと最近のご様子を生活日誌に書き留めている。日々変化している方もいらっしゃるので、ケアも日々変わる事があるので統一したケアが出来るよう朝のミーティングで話し合いをしている。また、入居者様の残存能力を保持するために、職員の都合で過剰な介助をしないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	事例検討の内容、日々の気づき、ご家族様、看護師、主治医、歯科医などの意見を介護計画に活かしている。また、違うユニットのスタッフの意見やアイデアにも積極的に耳を傾けるようにしている。	利用者、家族の意見や意向を聞き、アセスメントを行い、日々のケアの中で気づき等を踏まえ、職員や医師、看護師等多職種の見解や提案が反映した介護計画を作成している。半年毎にモニタリングを行い、身体状況に変化があれば見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	小さな気づきでもスタッフが発言し記録し、職員で共有している。それに合わせ柔軟にケアの変更を検討している。共有ノートを作成し、個々の状態の変化、特記事項等は記入し、出勤時には確認・周知するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その方にとって何が一番大切かを考え、職員、ご家族様、他職種と連携、話し合いを持ち柔軟性を持って取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域で行われている百歳体操には参加できていないが季節の果物彩花などを持ってきて下さったり、その花を見て入居者も「綺麗」など元気をもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医による定期的な往診があり、どんな時にも迅速に対応して頂いている。かかりつけ医は介護に理解があり相談にも快く乗ってくれている。	契約時かかりつけ医の希望を利用者、家族に説明し確認している。協力医療機関の2週間に1回の訪問診療、訪問看護ステーションと委託契約を結び週1回の来訪があり、適切な医療が受けられるよう支援している。必要時訪問歯科も可能である。	

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護が2回/週、健康管理で施設へ訪問している。相談や処置、緊急対応は常時電話で受けてくれており、助言や対応をしてきているため入居者様への支援がスムーズである。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医から紹介の時点から連携が出来ており、管理者、職員は病院へ面会へ行き病院関係者と情報交換できている。大きな治療がない以外、早期退院を目指し主治医へ引継ぎ日常生活の中での回復を支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	状態、体調の変化、また段階に応じて、ご家族には常に報告を行っている。ご本人の事前のお気持ちやご家族の意向を確認し主治医、介護職員が同席しご家族に十分説明できる場を持ち、終末に向けたプランを作成している。	「医療的な対応等に関する指針」「看取りに関する指針」を説明し確認している。段階的に応じて医師関係者同席で確認をしている。ターミナルカンファレンスを行い看取りケアに向けて利用者の食べられる物、食べたい物を提供し、最期を迎えられる支援をチームで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の対応は全体ミーティングで連絡系統の確認を行い、各フロアで急変時の対応など勉強会を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年二回、消防士立ち合いの元、避難訓練を行っている。内、一回は、広島市総合防災センターにて研修を行い、新しい情報をホーム内回覧にて周知している。水害・土砂のハザードマップ確認や、運営推進会議にて避難の際の協力依頼をしている。	年2回避難訓練を利用者と一緒に行っている。担当者が段取りや消防署への連絡等迅速に訓練が出来るよう取り組んでいる。水、土砂災害時を想定し、垂直避難訓練を実施している。地域の方の協力を運営推進会議を通じて依頼している。非常時に備えては水、食料品を備蓄している。	

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
の					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の先輩の方ですので呼びする時は必ず「～さん」と呼びし、あだ名で呼びすることはありません。また、お話をする時も視線を合わせ上から話す威圧的なことはしていません、車椅子の方も同様です。	一人ひとりの人格を尊重し、呼称も名字で、話をする時は視線を合わせて人生の先輩として、その時、その場に応じた丁寧な接し方に心掛けている。排泄時の羞恥心に配慮した声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者様の日頃の思いや希望を普通の会話や態度から察し、その上で思いを尊重できるよう努めている。 職員の声掛けで、「○○しましょうか」など入居者様に小さなことでも決定してもらえるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様の今までの歴史や個性を大切に、して制することなく、自由に、その方のペースで生活できるよう出来る限り支援し、寝る時間や拝む時間など行ってもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洗面所のミラーの前で整容し2ヶ月に1度の訪問理容では、ヘアカットだけではなく顔そり、髭剃りメイクもお願いし、写真を撮っている。その写真はご家族にもお送りしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べたいものを入居者様に伺ったり、旬のものを食べていただき季節を感じてもらえる努力をしている。朝食、昼食、夕食は同グループの給食サービスを利用しているが、ご希望に添えるよう工夫をしてお出ししている。おやつ時は、ご利用者の希望をお聞きし手作りのおやつをお出ししたり、昼食後は職員と一緒に皿洗いを行っている。	給食サービスによる栄養バランスのとれた献立を提供している。毎週金曜日の昼食は事業所の厨房で調理し提供している。旬の物や食べたい物があれば変更している。お好み焼き、おやつには手作り、誕生日ケーキ、出来る事としてちらしずしや食器洗い、自宅から持参した箸や湯呑等で食を楽しむ支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	同グループの給食サービスを朝、昼、夕食利用管理栄養士によるバランスの取れた食事になっている。一度に多量の水分を摂ってもらうのではなく少量を細かくお出しし、お茶がなかなか飲めない方にはスポーツドリンクやその方のお好きな飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、自立の方には声掛けをし、介助が必要な方は職員が口腔ケアを行っている。2回/毎月の歯科往診の際に先生にアドバイスをいただき実行している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄の状況を記録し、各入居者様の排泄ペース、量、便の状態の把握を行ったり、尿取りパットの種類を検討したり自立に向けた支援を行っている。向精神薬が効きすぎているか等、ミーティングで話を行い主治医へ相談し、薬が無くなり失禁が無くなった方等おられた。	一人ひとりの排泄記録により排泄パターンを把握し、声掛け誘導にてトイレでの排泄支援をしている。個々の状態に合った衛生用品を使用し、自立に向けた支援をしている。服薬の検討や牛乳等摂取し、便秘予防にも工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝、牛乳を飲んでいただき、下剤は極力使用しない自然排便を心掛けご利用者、全員が定期的な排便を行うようにしている。難しい時は下剤の力をかりている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴表を付け、偏りのないように支援しているが、決め事はなく、できるだけ入居者様の希望に沿えるようにしている。また、唯一入居者様と1対1になれる空間でもあるので、日頃言えない思いを聞く場にもなっている。	週2回午前浴を基本としているが、気分や体調により柔軟に対応している。入浴時間や入浴剤、季節にはゆず湯等、個々に合った入浴を楽しむ支援をしている。入浴後の保湿剤塗布や着替え等にも配慮した取り組みをしている。	

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者様の習慣やその日の、その時の体調や気分を汲み取り、必要な休息をとっていただいている。夜間、必要であれば体位交換を行っている。日中、居室で昼寝をすることが寂しい入居者様には、リビングのソファで傾眠を取っていただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	新しく処方された薬などは効果や副作用を引継ぎノートで周知し、職員が把握できるようにしている。担当薬剤師との関係が良好なため、詳しい説明を聞く事ができる。服薬方法も入居者様の嚥下状態などを考慮し、トロミの水や粉砕、ゼリーでの服用など工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者様の歴史や普段のおしゃべりからお好きなものを見つけ、楽しんでいただけるよう支援している。おやつを手作りしたり心の満足を心掛けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ緩和のため地域の行事であるどんど祭り、広島城での菊花展に行っている。また、車でのドライブや公園近所の散歩などは職員数に余裕があれば行っているが、回数は減っており入居者様のADLの低下に繋がっている。	地域のどんど祭りに利用者と共に参加、公園までの散歩で出会った地域住民の方との挨拶や、寺や広島城の菊花展等ドライブで外出している。敷地内の桜見物、駐車場での食事、事業所内で己斐カフェを開催し、手作りおやつで喜ばれる等、事業所内外で楽しめる支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	トラブル防止の為お金はお預かりしていない。何か必要な時は、職員と一緒に買い物へ行ったり難しければ職員が施設の小口を使用し立て替えで物品を購入している。		

自己評価	外部評価	項目(1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>希望があればいつでも電話を掛けていただいている。また、携帯電話をお持ちの方もいらっしゃる。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居心地の良い空間を作るために、毎月壁画を季節感のある作品に作り変え、ご利用者の好む歌番組を録画し日中に流しご利用者で見ていただき、居心地の良い空間をご提供できるようにしている。</p>	<p>毎月壁画は季節感のある飾り付けをしている。フローアからドア越しに眺める桜の樹や畑の野菜の育ち具合等愉しみの一つになっている。机や椅子は足台や座布団、クッションで個々の体型に合うよう工夫をしている。テレビやソファもあり、思い思いに寛げるように配置している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>自席でぼんやり外を眺める事ができたり、気の合った入居者様が隣同士で座りながらテレビを見たりできるようソファを配置している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時にはなるべく使い慣れたなじみの家具や家族写真などをお持ちいただけるようご家族にお願いしている。また、敬老の日やクリスマスなどの行事の際にスタッフがメッセージを添えた手作りカードなどをお部屋に飾らせていただいている。庭で咲いた花を一緒に取りに行き、花瓶に生けてお部屋に入れることもよくある。</p>	<p>自宅で使い慣れた家具や大切にしている物等持参している。ベッドの位置等家族と相談して設置している。趣味で続けている小物の作品作りの材料や小さなテーブルや鏡、遺影、家族の写真等飾り、思い思い居心地良く過ごせるよう工夫をしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>共用空間では、どのような場所であっても入居者様が自由に使えるようにしている。台所へも自由に入っていただけるように見守りをし、おしゃれをしたい方のために誰でも使用できるヘアブラシなどの備品にも気を配っている。何をすればいいか分からなくなってしまう方にはスタッフが手作りしたスケジュール表をお部屋に貼ったりして、自立を支援している。</p>		

V アウトカム項目(1F) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の基本理念である「ゆっくり いっしょに たのしく」を誰でも目に留まるようリビング及び事務所内に掲示し、日々の実践に努めている。新人研修でもオリエンテーションにてまずこの理念について学ぶようになっています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近所の方から畑で出来た野菜を下さったりホームの畑に苗を植える際は「今年も芋育てるんですか？」とお声掛けをいただいたりしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議では、ひやりはつとや事故の事例を通し、認知症について話をし、質問に答えている。又、管理者は地域包括主催の認知症ケアカフェのプロジェクトに参加して、「グループホームとは」などの話を行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナウイルスの規制緩和に伴い町内会長、民生委員、地域包括支援センター等に参加していただきホームの活動、ひやりはつとや事故報告の共有などを行い忌憚のない意見を頂いています。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域包括支援センターとの関係良好。生活課との関係良好。生活課とも連絡を取っている。又、生活保護、介護保険に関する不明点や対応に関して入居者様の家族様からの質問や相談など対応に苦慮していることは、相談し、助言を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	虐待、身体拘束防止に関する外部研修に参加し、その内容を職員に伝える場を設けて実践している。新人スタッフにはホーム長がきちんと説明し、正しく理解できるようにしている。ホーム内の勉強会も6カ月に1度行われている。入居者様が帰りたいや外に出たいと言われる時は、出来る限り外と一緒に going しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ケア向上委員会を設置し、ミーティングでは問題定義し話し合っている。管理者は虐待防止研修に出席し、内容を全職員で共有している。入浴スタッフは入居者様の体に異変がないか必ず確認している。また、スピーチロックなど日頃無意識に行ってしまう行為はスタッフ同士で注意し合える環境になっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	年に1度本社マネージャーを招いて権利擁護の勉強会を行っている。内容は現場で起こりうる事が中心になっており、理解、及び実践的な内容になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時にはご家族様に十分納得していただけるように、十分に時間をかけて説明を行っている。ホームの管理者、エリアマネージャーが同席し、サポートしている。また、何度もご足労頂くことがないように、関連医療、薬局の契約書なども予め揃えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年二回ホームで家族会を開催していましたが、まだ再開出来ておらず様子を見て行っています。普段から電話を掛けさせてもらい意見や要望をお聞きし、伝達ノート等を使って職員全員で共有している。又、他ホームで発生した事案なども回覧され、反映されている。ご家族からのご意見はすぐにホーム長もしくはフロアリーダーに報告するよう全スタッフが理解している。		

自己評価	外部評価	項目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日朝にミニミーティングを行い、入居者様や業務に関して意見などを出し合っています。毎月開催される全職員が参加する全体ミーティング等で事例検討会を開催している。日頃から職員同士のコミュニケーションが円滑で、異なるユニット同士でも意見を言い合える職場環境が整っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	キャリアパス制度を導入し、業務や人員体制など検討を行っている。本社の方と年に2度面談を行いやりたい事や業務改善などについて話を行っている。上長とは、年に1度面談を行い、目標設定や普段の様子など聞いたりしております。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月に1度全体ミーティングで勉強会を行い情報を共有する中、ケアに対する姿勢として前向きに考え”まずはやってみよう”精神で職員相互に協力しながら実践に努めている。その後は、評価が出来るようにミーティングを使って行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	広島市や地域で行われている研修に関する資料を誰でも見える位置に配置しています。自身で希望し研修へ行ったり、ホーム長からのすすめで積極的に研修会へ参加出来る土壌を作っています。また、研修に関する内容の報告を全体ミーティングで行い職員全員で共有しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にはホーム長、職員が面会し、ご本人様、ご家族様からの要望をお聞きしている。ご本人様の今まで生きてこられた歴史を大切にできるように努めている。聞き取った内容は全職員が共有している。また、馴染みの家具や小物などを前もって持って来て頂くなどして初期の不安を軽減するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>ご入居後にはご家族様へ細かく連絡をさせていただき入居後の様子をお伝えさせていただいています。その際にご家族様の感じておられる不安や要望を聞き途切れない関係作りを意識しています。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人、ご家族様の想いの傾聴に努め、納得できる支援方法を探す努力をしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>理念に沿い、職員は「介護している」と思うのではなく、「互いを尊重し合い、一緒に時を過ごし、同じ場所で一緒に楽しく生活している」ことを念頭に置いている。職員の都合ではなく、常に入居者様のペースで個別ケアを心掛けております。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族様からの電話の際に面会の希望日時を伺いいつでもホームへお越しいただける環境作りを行っています。家族様からの本人様への対応の希望を伺い家族様を身近に感じていただける対応を行っています。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>日頃の関りの中でも入居者様の馴染みの場所や思い出の場所等を伺っています。外出の際は少し違う道を通り思い出の場所の近くを通るように心掛けています。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様それぞれの関係性を把握し、その時の表情や発言からお気持ちに寄り添いながら、周囲との交流が出来るよう配慮している。また、庭の掃除やレクリエーションなどを通して1F、2Fの入居者様に関わりをもてるように工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居された後も運営推進会議に出席して下さったり、意見や応援をして下さっております。町内のイベント等でスタッフや入居者様に話しかけて来てくださるご家族がいる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様の発する何気ない言葉や表情に注視し、生活日誌に記録し、ご要望を推測したり、直接聞いたりしている。お話が困難な方は表情やしぐさから読み取るよう努めている。また、集団生活の中での意思表示が難しそうな時は散歩やドライブにお誘いして思いを聞くようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の情報シート、生活歴が把握の一步だが入居されてからご本人と関わっていくうえで出てくる話の内容などを記録し職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	変化したこと最近のご様子を経過記録に記入する。日々変化している方もいらっしゃるなので、ケアも日々変わる事があるので統一したケアが出来るよう引継ぎ帳や朝のミーティングで話し合っている。また、入居者様の残存能力を保持するために、職員の都合で介助し過ぎないないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	事例検討の内容、日々の気づき、ご家族様、看護師、主治医、歯科医などの意見を介護計画に活かしている。また、違うユニットのスタッフの意見やアイデアにも積極的に耳を傾けるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	小さな気づきでもスタッフが発言し記録し、職員で共有している。それに合わせ柔軟にケアの変更を検討をしている。共有ノートを作成し、個々の状態の変化、特記事項等は記入し、出勤時には確認・周知するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その方にとって何が一番大切かを考え、事業所、ご家族様、他職種と連携、話し合いを持ち柔軟性を持って取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近所の方が気にかけて下さり、季節の果物彩花などを持ってきて下さっております。その花や野菜を見て入居者も「綺麗」と言われたりされ季節を感じ元気もらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医による定期的な往診があり、どんな時にも迅速に対応して頂いている。かかりつけ医は介護に理解があり相談にも快く乗ってくれる。看護師資格を有する職員のサポートもある。		

自己評価	外部評価	項目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職員は日々の気づきを訪問看護師に報告している。相談や処置、緊急対応は常時電話で受けてくれており、助言や対応をしてきているため入居者様への支援がスムーズである。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医から紹介の時点から連携が出来ており、管理者、職員は病院へ面会へ行き病院関係者と情報交換できている。大きな治療がない以外、早期退院を目指し主治医へ引継ぎ生活の中での回復を支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	状態、体調の変化、また段階に応じて、ご家族には常に報告を行っている。ご本人の事前のお気持ちやご家族の意向を確認し主治医、看護師、介護職員が同席しご家族に十分説明できる場を持ち、終末に向けたプランを作成している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の対応は全体ミーティングで連絡系統の確認を行ったり、各フロアで急変時の対応など話し合いを行っています。勉強会で急変時のシュミレーションを行って、マニュアルを確認しております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年二回、消防士立ち合いの元、避難訓練を行っている。内、一回は、広島市総合防災センターにて研修を行い、新しい情報をホーム内回覧にて周知している。水害・土砂のハザードマップ確認や、運営推進会議にて避難の際の協力依頼をしている。		

自己評価	外部評価	項目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	洗面所のミラーの前で整容していただいたり、服や靴下をその日に選んでいただいたりしている。2・3ヶ月に1度の訪問理容では、ヘアカットだけではなく顔そり、髭剃りメイクもお願いし、写真を撮っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者様の日頃の思いや希望を普段の会話や態度から察し、その上で思いを尊重できるよう努めている。 職員の声掛けで、「○○しましょうか」などその場に応じて入居者様に小さなことでも決定してもらえるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様の今までの歴史や個性を大切に、制止することなく、自由に、その方のペースで生活できるよう支援している。寝る時間や拝む時間など出来る限り行ってもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洗面所のミラーの前で整容していただいたり、服や靴下を選んでいただいたりしている。2・3ヶ月に1度の訪問理容では、ヘアカットだけではなく顔そり、髭剃りメイクもお願いし、写真を撮っている。その写真はご家族にもお送りしている。6月の行事で浴衣を来てもらいお茶を立てています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	旬のものを食べていただき季節を感じてもらえる努力をしている。スタッフも同じテーブルで過ごし食事の説明を行ったりしながら話し合える空気となっています。朝食、昼食、夕食は同グループの給食サービスを利用しているが、ご希望に添えるよう工夫をしてお出ししている。食事もお食べられないもの、苦手な物をスタッフで共有しその方に応じておかずの変更等を行っています。食前もテーブルを拭いていただいたり食後に食器を洗っていただいたり食前食後も入居者様と一緒に準備や片付けを行っています。		

自己評価	外部評価	項目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	同グループの給食サービスを朝、昼食利用。管理栄養士によるバランスの取れた食事になっている。食事中、後にお茶のお替りの声掛けを積極的に行っている。お茶がなかなか飲めない方にはスポーツドリンクやその方のお好きな飲物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、自立の方には声掛けをし、介助が必要な方は職員が口腔ケアを行っている。毎月1・2回の歯科往診の際に先生にアドバイスをいただき実行している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄の状況を経過記録、排便表に記録し、各入居者様の排泄ペース、量、便の状態の把握を行ったり、尿取りパットの種類を検討したり自立に向けた支援をしたりしている。排便の状態を相談し下剤の調整をしていただき自力での排便が出来るように支援をさせていただいています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	経過記録の他に排便チェック表を付けて把握している。11時や14時に水分の摂取をしていただいています。また、乳製品を飲料やおやつに用いて便秘予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴表を付け、偏りのないように支援しているが、決め事はなく、できるだけ入居者様の希望に沿えるようにしている。1階の入浴がどうしても難しい場合は2階の職員が2階で入浴介助をしてくれる時もある。その逆もある。また、唯一入居者様と1対1になれる空間でもあるので、日頃言えない思いを聞く場にもなっている。入浴の際は肩にお湯をかけたり、暖かいタオルを掛けたりしてゆっくりと入浴を楽しんでいただいています。		

自己評価	外部評価	項目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者様の習慣やその日の、その時の体調や気分を汲み取り、必要な休息をとっていただいている。夜間、必要であれば体位交換を行っている。日中、居室で昼寝をされる方に対しても何度か訪室し安全確認を行い起きておられる際には声を掛けたり室内の温度調節を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	新しく処方された薬などは効果や副作用を引継ぎノートで周知し、職員が把握できるようにしている。担当薬剤師との関係が良好なため、詳しい説明を聞く事ができる。服薬方法も入居者様の嚥下状態などを考慮し、トロミの水や粉砕、ゼリーでの服用など工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者様の歴史や普段のおしゃべりから好きなものを見つけ、楽しんでいただけるよう支援している。季節に応じたおやつを一緒に手作りしたり心の満足を心掛けている。また外で庭掃除などを行った際には近所の散歩などを行い気分転換を行っています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	菊花展やとんどまつり等季節を感じていただける外出を行っており、普段の会話の中でもテレビを観て「どこに行ってみたいですか？」等希望を聞いたりしています。また、外の気温と天候が良い日には近場の公園や近所を大きくグルッと散歩を行ったりしています。その際も近所の方との交流を楽しんで頂いています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	トラブル防止の為お金はお預かりしていません。ただし、お金の事が気になる方は、財布の中にお金を入れて、教えられたりして安心している。買い物の際は入居者様に好きなお菓子を選んでいただいたり、その支払いをホームのお財布からしていただいています。		

自己評価	外部評価	項目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があればいつでも電話を掛けていただいている。また、携帯電話をお持ちの方もいらっしゃる。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	庭の季節の花や季節の手作りの作品を玄関に飾ったり、レクリエーションで作成した作品をリビングに飾っている。クッションやトイレの棚のカーテンなど清潔感があり、且つ明るい柄のものを選択している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自席でぼんやり外を眺める事ができたり、気の合った入居者様が隣同士で座りながらテレビを観たり、ボール遊びができるようソファの位置を工夫している。テラスにもソファを用意し一人で休める環境も作っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時にはなるべく使い慣れたなじみの家具や家族写真などをお持ちいただけるようご家族にお願いしている。また、敬老の日やクリスマス、誕生日などの行事の際にスタッフがメッセージを添えた手作りカードなどをお部屋に飾らせていただいている。庭で咲いた花を一緒に取りに行き、花瓶に生けてお部屋に入れることもよくある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	共用空間では、どのような場所であっても入居者様が自由に使えるように改良してきた。掃除をしたい方のために用具を低い位置に置いたり、台所へも自由に入っていただけのように見守りをしている。おしゃれをしたい方のために誰でも使用できるヘアブラシなどの備品にも気を配っている。何をすればいいか分からなくなってしまう方にはスタッフが手作りしたスケジュール表をお部屋に貼ったりして、自立を支援している。		

V アウトカム項目(2F) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム己斐・みどりの家

作成日 令和6年4月8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	職員を育てる仕組みが人員不足のため対応ができていない。	職員が自己研鑽に励むことができる環境を整える。	職員と面談や話し合いをし個人の目標を明確にする。	1年
2	35	災害時の対応が各職員へ意識づけができていない。	BCPも含め職員が災害時の対応を周知する。	全体ミーティング時に研修、訓練を継続的に行っていく。	1年
3	49	職員の人員不足のため外出支援があまりできていない。	少しの余裕で日常的に外出支援ができるようになる。	職員個々が業務、慢性的な人手不足に取らわれるのではなく、何ができるのかを考える癖をつける。	1年
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。